2018. 07. 26 北海道通信

開発局の30年度優良工事等表彰

局長表彰 工事部門

伊藤組土建、森川組など35社

業務部門 開発工営社など31社

きょう表彰式挙行

開発局は、三十年度優良工事等表彰の受賞者を発表した。局長表彰の工事部門は三十五件、伊藤組土建㈱（札幌）、㈱森川組（函館）など三十三社二JVで、重複除き三十五社が受賞。業務部門は三十九件、十二年連続の受賞となった㈱開発工営社（札幌）、十年連続の㈱構研エンジニアリング（札幌）など三十八社一JVで、重複除き三十一社が栄誉に輝いた。港湾空港・営繕・開建部長表彰は、工事が九十三件、八十九社四JV、重複除き八十七社、業務は八十九件、八十七社二JV、重複除き五十九社が選ばれた。局長表彰式は、きょう二十六日に札幌第一合同庁舎で挙行される。業務部門は午前十時から、工事部門は午後二時からを予定している。

＝受賞者一覧8～9面＝

開発局は、二十九年度から、全国の地方整備局の状況などを踏まえ、表彰の件数割合を拡大。本年度は、二十九年度に完成した工事一千七百二十二件、業務二千六百三十九件を対象に、成績優秀、困難な施工などといった観点で厳正な審査を実施した。

工事は前年度と比較して局長表彰が五件増、部長表彰が八件増、業務は局長表彰が二件減、部長表彰が四件減となった。

局長表彰のうち、工事では、岩田地崎建設㈱（札幌）、㈱砂子組（奈井江）、齊藤建設㈱（函館）、㈱松本組（函館）、荒井建設㈱（旭川）、高玉建設工業㈱（別海）、渡辺建設工業㈱（根室）、萩原建設工業㈱（帯広）、堀松建設工業㈱（留萌）が二年連続の受賞となった。

伊藤組土建は札幌開建の河川と道路部門、宮坂建設工業㈱（帯広）は帯広開建の河川と道路部門で受賞。複数工事で栄誉に輝いた。

ICT活用工事による施工は局長表彰七件、開建部長表彰で十一件だった。

業務では、開発工営社が十二年連続、構研エンジニアリングが十年連続、㈱ドーコン（札幌）、北海道開発技術センター（札幌）が七年連続、パシフィックコンサルタンツ㈱（東京）が五年連続、㈱アサヒ建設コンサルタント（旭川）、㈱農土コンサル（札幌）、㈱北未来技研（札幌）が四年連続、㈱リブテック（札幌）、石狩川振興財団（札幌）、大地コンサルタント㈱（旭川）、北王設計コンサルタント㈱（札幌）が三年連続、㈱福田水文センター（札幌）、北海道道路管理技術センター（札幌）、㈱リージャスト（函館）、㈱アルファ水工コンサルタンツ（札幌）、㈱アークス山上（旭川）、㈱ケイジー技研（札幌）、㈱スコーシャ（帯広）が二年連続の受賞となった。

複数業務の受賞では、北海道河川財団（札幌）、北海道開発技術センター、北海道道路管理技術センター、アルファ水工コンサルタンツ、ドーコン、㈱ドボク管理（北見）、開発工営社、構研エンジニアリング、日本工営㈱（東京）が該当している。

表彰対象となった技術者は、延べ人数で、工事の局長表彰が三十七人、部長表彰が九十三人、業務の局長表彰は三十九人、部長表彰は八十五人となった。

本年度の受賞企業および技術者については、工事、業務とも八月一日以降の入札契約手続き案件から総合評価落札方式などで加点措置が講じられる。

2018.07.26 北海道建設新聞

開発局長表彰に66者

18年度優良工事と業務

北海道開発局は26日付で、2018年度優良工事等表彰の受賞者を発表した。局長表彰は工事部門から35件、35者が選ばれ、岩田地崎建設、砂子組、斉藤建設、松本組、荒井建設、渡辺建設工業、高玉建設工業、萩原建設工業、堀松建設工業が2年連続で受賞。業務部門は39件、31者が選ばれ、開発工営社が12年連続の受賞となった。工事部門のうち、ICT活用工事は局長表彰と開建部長表彰を合わせて前年度比13件増の18件が入賞した。局長表彰は26日に札幌第1合同庁舎で行い、和泉晶裕局長が受賞企業と団体、担当技術者に賞状を授与する。

（受賞者一覧5面に）

開発工営社は12年連続受賞

優良表彰は前年度に完成した工事・業務で、成績評定が特に優秀で、困難な施工条件を克服したのをはじめ、創意工夫に努め、安全確保の取り組みが他の模範として顕著な成果を上げた企業が対象。一定の表彰枠割合で基準に沿って局長、部長表彰を選考し、本局での審査を経て決定する。

開発局は16年度から工事の選考基準を見直し、対象件数のうち、局長表彰をこれまでの1・5%から2%、部長表彰を4・5%から5%に枠を拡大。業務の選考基準は変えていない。また、表彰の決定は「成績優秀」や「困難な条件」「創意工夫」など6項目からなる推薦事由の多さが関係する。

18年度は、17年度に完成した工事1722件、業務2639件から選考。工事の局長表彰は前年度より4件多い35件、部長表彰が8件多い93件。業務は局長表彰が2件少ない39件、部長表彰は4件少ない89件を選定。17年度のICT活用工事は道路、河川、空港、港湾の工事92件で、うち受賞対象となったのは局長表彰が7件、部長表彰が11件でいずれも単体での施工だった。

局長表彰は、工事部門で伊藤組土建と宮坂建設工業が各2件、業務部門では北海道河川財団、ドーコン、開発工営社、構研エンジニアリング、日本工営、北海道道路管理技術センター、アルファ水工コンサルタンツ、北海道開発技術センター、ドボク管理が各2件の受賞となった。

業務部門での局長表彰連続受賞は12年連続の開発工営社に続いて、構研エンジニアリングが10年連続、ドーコンと北海道開発技術センターが7年連続などとなっている。

部長表彰は、工事部門で87者、業務部門で59者が栄誉に輝いた。表彰式は27日以降に各部局で順次行われる。

2018. 07. 27 北海道通信

開発局が優良工事等局長表彰

66者の栄誉たたえる

受賞者家族にも功績を紹介

北海道開発局は25日、2018年度優良工事等局長表彰式を札幌第1合同庁舎で開いた。局長賞を受賞した工事35者、業務31者の代表と技術者に和泉晶裕局長が表彰状を手渡し栄誉をたたえた。

17年度に完了した工事1722件、業務2639件の中から創意工夫や困難な条件を克服し、顕著な成果を上げた工事35件、業務39件を選んだ。

「式辞で和泉局長は働き方改革や品質確保の重要性を強調。「若い技術者にとっても飛躍の契機になる」と述べ、技術開発や人材育成への注力を求めた。

受賞者の家族にも「受賞したのは全体の2%程度で100人に2人しかもらえない」と称賛。16年8月台風の復旧で建設業が尽力したことなどに触れ、「災害では24時間休みなしのこともある。地域に安心して住めるのはこういう仕事があるから」と意義を説いた。

工事成績優秀企業の認定証授与式も行い、過去2年の成績評定が特に優秀な19社の代表に和泉局長が認定書を手渡した。

斉藤建設（函館）、三和工業（北見）、宮坂建設工業（帯広）、岩田地崎建設（札幌）、高堂建設（帯広）、市橋建設（釧路市）、松谷建設（北見）、渡辺組（遠軽町）、渡辺建設工業（根室）、泰進建設（札幌）は優良工事等表彰と同時受賞した。

受賞技術者の子どもたちには和泉局長が感謝状を手渡したほか、北海道建設新聞社などが加盟する北海道建設記者会からは図鑑、北海道建設業信用保証からはQUOカードが贈られた。一般国道274号清水町石山改良の代理人を務めた宮坂建設工業の中原孝行さんの息子、小学6年生の央太郎君は「たくさんの人の中から選ばれてすごいと思った」と感嘆。

一般国道40号稚内市中央電線共同溝詳細設計を受注した開発工営社（本社・札幌）の加藤和明さんの妻美和さんは「北海道の道路の仕事を通して貢献していることを知られて良かった」と話し、一般国道5号ほか道路活用検討で受賞したパシフィックコンサルタンツ（東京）の西川洋一さんの娘、小学6年生の莉乃さんは「家にいるときとは違った一面を見られた」と笑顔を見せた。

和泉局長（右）が賞状を手渡し栄誉をたたえた

家族には図鑑などがプレゼントされた

2018.07.27 北海道建設新聞

本道開発へさらなる活躍を

局長表彰66社の栄誉たたえる

開発局が30年度優良工事等表彰式

和泉局長は、今後も本道の良質な社会資本整備のため力を尽くすことに期待した（上段工事部門、下段業務部門）

開発局は二十六日、札幌で、重複除き三十五社が受賞。業務部門は三十九件、第一合同庁舎で三十年度優良工事等表彰の表彰式を挙行した。局長表彰の工事部門は三十五件、伊藤組土建㈱（札幌）、㈱森川組（函館）など三十三社二JVで、重複除き三十一社が栄誉に輝いた。和泉晶裕局長は、受賞企業の代表者と技術者に表彰状を手渡し、高い技術力をたたえるとともに、今後の活躍に期待を寄せた。＝関連記事2面＝

表彰式は、二十八年度から工事部門と業務部門を分けた二部構成で実施。建設業の魅力発信や担い手確保の一環として、表彰対象企業の技術者の家族や、若手技術者も招待している。当日は、受賞企業の代表者と技術者をはじめ、受賞技術者の栄えある姿を見ようと、多くの家族と若手技術者も出席した。

開発局は、二十九年度から、全国の地方整備局の状況などを踏まえ、表彰の件数割合を拡大。本年度は、二十九年度に完成した工事一千七百二十二件、業務二千六百三十九件を対象に、成績優秀、困難な施工などといった観点で厳正な審査を実施し、表彰対象を選定した。＝受賞企業二十六日付8～9面既報＝

局長表彰のうち、工事は、岩田地崎建設㈱（札幌）、㈱砂子組（奈井江）、齊藤建設㈱（函館）、㈱松本組（函館）、荒井建設㈱（旭川）、高玉建設工業㈱（別海）、渡辺建設工業㈱（根室）、萩原建設工業㈱（帯広）、堀松建設工業㈱（留萌）が二年連続の受賞となった。

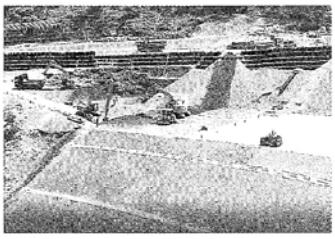
業務は、開発工営社が十二年連続、構研エンジニアリングが十年連続、㈱ドーコン（札幌）、北海道開発技術センター（札幌）が七年連続、パシフィックコンサルタンツ㈱（東京）が五年連続の受賞となった。

和泉局長は、受賞企業の代表者と技術者に表彰状を手渡したあと、式辞。受賞者の成果品にふれ、「精度の高い品質管理など他の模範となる極めて優秀な成果を収め、業界全体の技術向上、北海道開発事業に大きく寄与した」と高く評価した。開発局では、働き方改革に関する施策や、i―Constructionなど生産性向上に資する取組を進めていることから、これらの政策に対する引き続きの協力とともに、「第八期北海道総合開発計画の着実な実現に向け、本道の良質な社会資本整備のため一層の活躍を」と呼びかけた。

2018.07.30 北海道通信

■274号清水町石山南改良（中原孝行）

＝帯広開建発注＝



宮坂建設工業㈱

28年8月の台風で被災し通行止めとなった日勝峠7号目付近の復旧工事。複雑な地盤条件に対応するため、ＵＡＶによる空中写真測量で三次元データを作成し、ＩＣＴ建機等を活用して計画的に工事を進めた。現場代理人は「日勝峠復旧工事連絡協議会」の会長を務め、早期通行再開にも大きく貢献した。

■音更川音更築堤災復（坂田信）

＝帯広開建発注＝

宮坂建設工業㈱

延長が長い区間での災害復旧を短期間に行う必要があったが、ＩＣＴを活用し、良好な品質の護岸を完成させた。出水を想定した重機の退避や仮締切の補強等の訓練を行うなど、安全対策の取組も実施。工事期間中には実際に出水も発生したが、工事個所の被災は小規模にとどめることができた。